

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 5 月 7 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (5/7 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	19.9	103.8 kPa abs	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	29.6	4.60 kPa g	A系： 0.04 Vol%
		給水系：約 1.7 m ³ /h			B系： 0.04 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	26.7	0.24 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 Vol%

*：絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (5/7 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.0
2号機	循環冷却システム	運転中	17.7
3号機	循環冷却システム	運転中	17.5
4号機	循環冷却システム	運転中	18.9

各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘビドラジンの注入を適宜実施。

[3号機]

・H26/4/19～ 使用済燃料プール内瓦礫撤去作業のうち、燃料交換機本体撤去作業を実施。

4/23～ 使用済燃料プール循環冷却系については、使用済燃料プール内の燃料交換機本体撤去作業に伴い、4/23～6月上旬の間、原則毎週月曜日 7:00～土曜日 16:00 の間停止予定(停止時間は最長で 129 時間、毎週土曜日 16:00～月曜日 7:00 の間は運転予定)。また、水温は運転上の制限値 65 に十分な余裕を持った 45 を超えることがないよう、同冷却系停止前のプール水温度を 29 以下として管理する。

< 最新の作業実績 >

4/30 14:06 冷却系起動(起動後の温度:23.3)

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	5/1 10:10 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	4/24 10:34 ~ 移送実施中

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (5/7 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*1	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

< 5. その他 >

・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27 より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびバッカー挿入の作業を開始。

4/2 挿入が完了した凍結管について凍結を開始し、4/26 に全 17 本の凍結管の挿入作業、そのうち 13 本のパッカー設置作業が終了したことから、4/28 凍結管全 17 本の凍結運転を開始した。今後、1ヶ月程度で凍結の壁を造成していく予定であり(6月頃完了予定)、凍結状況については、測温管にて確認していく。

・H26/3/14 13:35 ~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。

・5/3 8:15 頃 構内給油所でタンクローリーの付属ホースの根元が破れ少量の軽油が漏れていることを協力企業作業員が発見。同日 8:50 に富岡消防署へ連絡。油漏れの範囲は、漏えい発見時点で直径約 60cm。漏えい発見後、当該ホースの破れた箇所をテープにて補修するとともに、地面に漏えいした油について、吸着マットによる拭き取りを実施。その後も、当該ホースより若干の油滴下が継続したため、吸着マットにて受けていたが、同日 9:04 に油の滴下が止まったことを確認。念のため、滴下していた箇所に受け皿を設置。

当該タンクローリーは、構内給油所の作業開始に合わせ、同日 6:30 頃に駐車場である事務本館前駐車場(免震重要棟東側)から構内給油所に移動していた。このため、当該タンクローリーが駐車していた事務本館前駐車場を確認したところ、地面に直径約 20cm と直径約 10cm の油が染み込んだ跡があることを確認。双葉消防本部による現場確認の結果、同日 12:42 に、本件は危険物の漏えいではなく、「油漏れ事象」との判断を受けた。なお、現場確認の際、双葉消防本部より以下の指示を受けた。

・当該タンクローリー内に残っている軽油をドラム缶へ移送すること。

・ドラム缶への移送が完了し、当該タンクローリーを別の場所に移動するまで、構内給油所における給油活動を行わないこと。

上記の指示を受け、同日 12:26 より、当該タンクローリー内の軽油をドラム缶へ移送する作業を開始し、同日 12:41 に作業終了。当該タンクローリーについては、同日 13:30 に構内給油所から事務本館前駐車場へ移動終了。

[H4, H6 エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連]

< H4 エリア周辺のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

< H6 エリア周辺のサンプリング実績 >

・地下水観測孔 G - 2 において、5/2 に採取した地下水のトリチウムの分析結果は、1,200Bq/L であり、5/1 採取分(検出限界値未満(検出限界値 110Bq/L))と比較して 10 倍程度上昇。

< 地下水観測孔: G - 2 >

・5/2 採取分: トリチウム 1,200 Bq/L

全ベータ 46 Bq/L

・5/1 採取分: トリチウム 検出限界値未満(検出限界値 110 Bq/L)

全ベータ 130 Bq/L

(参考) 告示濃度限度 : トリチウム 60,000 Bq/L

その他については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。引き続き監視を継続していく。

[焼却工作建屋の水位・焼却工作建屋サブドレン水の分析結果]

< トピックス >

・H26/4/14 ~ 集中廃棄物処理施設 4 カ所(プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、サイトバンカ建屋、焼却工作建屋)のうち、3カ所間において、通常使用していない以下の滞留水移送ラインに設置してある仮設ポンプ(4台)が運転中であり、焼却工作建屋地下 1 階の全域に滞留水が広がっていることが確認されたことから、常設水位計による常時監視ならびに、焼却工作建屋のサブドレン水の分析を強化中。

< 最新の水位 >

・各建屋内の滞留水の深さについて大きな変化は確認されていない。

[5/7 14:00 時点の各建屋水深]

焼却建屋: 深さ 19.0cm(4/14 移送停止後と比較し、1.4cm 増)

工作建屋: 深さ 5.3cm(4/14 移送停止後と比較し、0.3cm 増)

< 最新のサンプリング実績 >

・焼却工作建屋東側サブドレン水の全ベータ放射能濃度が 170Bq/L(5/1 採取)と 4/30 採取分 13Bq/L から 10 倍以上に上昇した件(5/1 再採取分析結果: 430Bq/L)について、5/2 に採取した値は 230Bq/L となり、その後大きな変動は確認されておらず、低下傾向(5/3 採取: 92Bq/L, 5/4 採取: 51Bq/L)にある。

[タービン建屋東側の地下水調査 / 対策工事の実施状況]

< 地下水観測孔サンプリング実績 >

・4/28 初採取の海水調査地点である 1 号機取水口(遮水壁前)の測定結果は以下の通り。

< 1 号機取水口(遮水壁前): 4/28 採取分 >

- ・トリチウム : 130 Bq/L
- ・セシウム 134 : 4.8 Bq/L(お知らせ済)
- ・セシウム 137 : 13 Bq/L(お知らせ済)
- ・全ベータ : 71 Bq/L(お知らせ済)

・5/5 採取の地下水観測孔 No.1-12 の全ベータ値について、前回値 80 Bq/L(5/1 採取)から 1,100 Bq/L に上昇していることを確認[過去最高値:730 Bq/L(H25/10/21 採取)]。今後も監視を継続していく。

[地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績]

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上